

科目	教育制度論	担当	加藤 幹根	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

本講義では日本と西洋の教育制度と歴史、教育基本法と教育システムを理解し、教育制度に関する基礎的な知識を理解することを目標とする。

本講義において、日本や西洋の教育制度と教育の歴史を理解するとともに、教育基本法と教育システムについて理解し、教育制度改革の動向や教育をめぐる現代的課題についても考察を深めることができる。

【履修注意】

教職を目指す者のみ履修対象となる。その他の者は履修できない。

欠席は4回までとする(遅刻2回で、欠席1回とする)。

【評価方法】

中間まとめと期末試験(70%)、小論文、小テスト、提出物、講義への参加意欲(30%)によって評価する。

【試験について】

中間まとめと期末試験を実施する。また、毎時間、小論文または小テストを実施する。

再試験対象者の条件: 不合格者のうち、小論文すべて提出、小テストすべて合格、筆記試験40点以上の者

【予習・復習】

中間まとめと期末試験を実施する。また、毎時間、小論文または小テストを実施する。

再試験対象者の条件: 不合格者のうち、小論文すべて提出、小テストすべて合格、筆記試験40点以上の者

【教科書】

購入教科書なし。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	古代から近世の日本の教育制度	古代・中世・近世の教育制度と教育の歴史
2	明治初期の日本の教育制度	明治維新と教育
3	近代国家の確立と教育Ⅰ	1880年代の教育、学校令と教育勅語
4	近代国家の確立と教育Ⅱ	義務教育の確立、学校教育制度の整備と拡充
5	大正デモクラシーと教育	ヘルバルト学派、大正自由教育運動と芸術教育運動
6	戦時下の教育制度	臨時教育会議、戦時体制下の教育
7	終戦直後の教育制度	戦後の教育方針
8	教育制度の変革	戦前と戦後の教育制度の比較概要
9	戦後の教育改革	戦後の教育改革、終戦から1980年代までの教育改革
10	現代の教育改革Ⅰ	1980年代から2000年までの教育改革
11	現代の教育改革Ⅱ	2000年から教育基本法改正までの教育改革
12	現代の教育改革Ⅲ	教育改革と学習指導要領の改訂
13	日本国憲法と教育基本法	日本国憲法抜粋、教育基本法全文、昭和22年と平成18年の変化
14	教育基本法と教育システムⅠ	教育の目的と目標、教育を受ける権利
15	教育基本法と教育システムⅡ	教育行政、教育振興基本計画、第2期教育振興基本計画
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ